

成果指標				
成果指標	指標を設定しない。			
指標設定の考え方	具体的な事業は実施せず、企画全般の事業を執行するための管理経費であるため、指標を設定できない。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	0	0	0	0
実 績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	5	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	5	A
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	松山圏域連携事業において、所管課との連絡調整を図ることができた。また、取り纏めた松山圏域連携(案)を議会に説明するなど、事業の円滑な遂行にも努めた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	5	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	5	A
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	27年度から松山圏域での新たな連携事業の検討が始まり、様々な分野で松山市との連携について協議を進めるため、所管課との調整を図り、連携事業をまとめることができた。28年度からは、第二次総合計画・地方創生総合戦略・松山圏域未来共創ビジョンを一体的に推進するため、未来づくり戦略室が担うこととなる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題